

1. はじめに

近年、様々な社会状況の変化によって、学生の抱える悩みや困難は多様化し、学生相談の利用件数は年々増加している。それに伴い、学生相談担当者の過重負担が指摘されている[1]。今、学生相談の充実が大学にとって重要な課題である。相談事例に対し客観的分析を行うことで知見を得て、学生相談にフィードバックすることができれば担当者の負担を軽減できる。

相談事例における人間関係の表現は、データベース化のための課題の一つである。本研究では、学生相談事例を構成するものの中で、相談者の関わる二者間の人間関係をより客観的に表現し、これを用いて人間関係の変化に着目した相談事例分析を行うことである。

2. 提案する学生相談分析の手順

学生相談は学生を対象とするカウンセリングである。したがって、相談内容は厳格に秘匿されるため、本研究では、相談者本人が研究利用を許可している事例の相談記録から個人を特定できる内容を削除、変更したデータを利用した。

匿名化、改変が行われたデータを人間関係に着目して客観化するために、まず、カウンセリングの進行順にならんだ記録を、本人の経験した時系列へと変換する。小田ら[2]は、時間軸の問題に加え、各場面に現れる人間関係を扱う学生相談システムを設計した。

次に、人間関係の変化があった時点で場面を区切り、場面ごとの人間関係を客観的に表現し、その場面ごとの推移を観察することで分析を行う。

3. 学生相談における人間関係

3.1 主観的關係を表現する属性

学生相談における人間関係には、信頼や嫌悪など、主格が対格に対して抱く心理的な関係(主観的關係)と、指導教員、父、友人など主格と対格の立場等の関係(客観的關係)の二つが存在するとする。

本研究では主観的關係を、名古屋工業大学学生なんでも相談室のカウンセラー、相談員の協力を得て、カウンセラーが得た情報から客観的に評価可能な属性を与えた。これを表1に示す。

表1. 本研究で提案する主観的關係の属性

属性名	値	説明
維持期待	+/-	主格がその関係を維持することを望んでいる(+か、否か(-)か。
貢献	+/-	カウンセラーから見て関係の維持が、問題の解決に望ましい(+か、否(-)か。
距離	N/M/F	主格から対格への心理的距離。 Near(近接) : 身体的接触を持てる Medium(中位) : 話しかけられる Far(遠) : 話しかけられない
優位	E/Q/A	この関係における主格と対格の優位性。 主格(Ego)が優位、対等(eQual)、対格(Alter)が優位

以上の四つの属性を用いることで、二者間の人間関係における主観的關係を客観的に表現した。

3.2 属性を利用した人間関係の可視化

定義した属性を用いて、実際に複数の相談事例について検討した。図1は一例について、場面経過による属性値の変化をグラフにしたものである。この例は、引きこもって修学が遅れていた学生に手を差し延べる支援者に、本人も母親も困惑しつつ最終的に受け入れ、指導教員とのコミュニケーションを回復し、卒業に向かう内容である。セッション数14で構成され、4人の人物が現れ、延べ20件の関係が現れている。

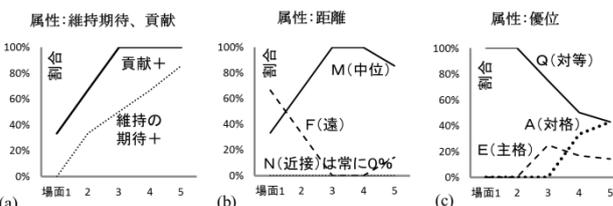


図1. 相談事例の場面経過による属性値の変化(一例)

図1より、時間を経て変化する人間関係を、複数の視点から分析することができる。この例では次のことが観察される。

- 問題解決へ貢献すると考えられる関係も本人が望む関係も場面を追って割合が増している。
- 人物間の距離が遠から中位に早い段階で変化している。
- 後半で相手(対格)を優位とする関係が増しており、尊敬や相手への好意が増していることを反映している。

他事例も同様に属性付加、分析が可能なることを確認した。

4. おわりに

学生相談について分析するための課題の一つである、心理的人間関係を定量的に扱うため客観的に定めることが可能な属性を与え、複数の事例に適用し利用可能であることを確認した。カウンセラーの意見としても相談を記録する際にこれらの属性を記録することは障害にはならないとしている。また、属性の値の推移の様子が、事例の分析の指標となることがわかった。

今後の課題として、属性の値が客観的に定まるかの検証、効果的な分析を行うためには多くの事例を利用した分析が必要であるが、そのための事例採取方法、属性を用いた分析を記録するシステムの実装があげられる。

参考文献

[1] 文部省高等教育局・大学における学生生活の充実に関する調査研究会「大学における学生生活の充実方策について(報告) — 学生の立場にたった大学づくりを目指して —」, 2000.  
[2] 小田尚宜, 武藤敦子, 犬塚信博「相談構造を考慮した学生相談記録システムの提案」第10回情報科学技術フォーラム論文集D-032, 2011